



センターだより

愛知県勤労者安全衛生研究センター
〒456-0002
名古屋市長久区金山町1丁目14-18
ワークライフプラザれあろ3F
TEL(052)684-0003
FAX(052)684-0303
連合愛知ホームページからも閲覧できます
<http://www.rengo-aichi.or.jp>

充実した職場パトロール研修

第4回理事会および理事研修開催



理事会

10月13日(木)第4回理事会を“パナソニックエコソリューションズ住宅設備(株)幸田工場様の会議室”において行った。

持田理事長は、今年度の安全衛生センターの取り組みとしては、この理事会と11月30日のエイズデーフォーラム・第28回定期総会と残りわずかとなった。今年度は各構成組織・各組合で職場の特性に合わせた取り組みを実施したと思うが、安全衛生センターとしても、労災の未然防止、安全衛生活動のレベルアップ、活動に役立つ情報提供、労働保険加入促進等々の活動を行ってきた。今後とも各構成組織と連携を深めることで、各構成組織はもとより県下の労働災害の防止に努め、より充実した労働環境を目指して行くことが重要だ。本日は来年度の活動計画について審議いただく。活発な論議で来年度方針が補強されることを願いたい。

また、パナソニックエコソリューションズ住宅設備(株)様のご協力により、久しぶりの職場パトロールを行う。学び取ったことをそれぞれの組合・組織で活かしていただきたいと思います。

まず、構成組織から出された以下の理事の交代について確認し、新理事の自己紹介を行った。

構成組織	新	旧
自動車総連	影山 純一	山口 英治
J A M	郡山 玲	今泉 徹
ゴム連合	佐々木 雅史	山田 裕規
全国ガス	藤田 真帆	内藤 貴祥

また、安全衛生センターの所長交代については、次期総会は役員交代年度ではないため、理事会において確認を行った。

新	旧
伊藤 邦彦	前野 守孝

主要な議題は、安全衛生センター第28回定期総会に関する案件で、①2016年度活動報告、2016年度決算報告および同会計監査報告、②2017年度活動計画(案)③労働保険事務組合規約改正(案)等について論議を行った。さらに、例年総会時行っている連合愛知「エイズデーフォーラム」の開催については、本年はパンフレット啓発とDVD学習によるフォーラムとすることを満場一致で確認した。

理事会後の職場パトロール研修はパナソニックエコソリューションズ住宅設備(株)幸田工場を巡視することとした。

1. 工場長の会社概要説明
2. 安全パトロールのポイント進め方
3. グループミーティング
4. 職場パトロール
5. 現場パトロール終了後の問題点のまとめ
6. 各グループよりまとめ報告
7. 全体好評 という順で行った。



職場パトロール研修

この中で、安全パトロール研修のポイントについては

- (1) パトロールはあら探しではない。
 - (2) パトロール員の発見能力が高まるほど、企業の災害予防レベルが向上する
 - (3) パトロール員自身の作業行動と現場行動を比較して、危険要因を発見する習慣を身につける。
- との基本的な考え方に基づき”見る巡視+考える巡視!”を心がけよう。と説明を受けた。

その後、①4S、②作業の安全、③機械設備の安全、④全体の4班に分かれ、それぞれのチェックシートを持って工場を1時間巡視し、終了後にグループによる意見交換を行った。4Sの行き届いた職場ではあるが、参加者からは疑問点や良い点も含め様々な意見を出し合い、研修を終えた。



連合愛知安全衛生センター第28回定期総会

と き 11月30日(水) 15:40~17:00

と ころ れあろ6階大会議室

— 総会前段開催 —

と き 15:00~15:30

2016エイズデーフォーラム

連合愛知安全衛生担当者研修会開催

愛知 安全衛生担当者研修会



安全衛生担当者研修会

連合愛知安全衛生担当者研修会は9月7日(水)、れあろ6階大会議室で開催した。

持田理事長から、本日の研修会は各構成組織の安全担当を中心に安全衛生に関する課題について、認識の共有化を図り、各組織に持ち帰っていただき、各組織の活動に活かすことを目的に開催するものである。今回は、防災と健康づくりについて研修を行う。

簡単に紹介すると、「過去の災害に学び今後の震災に備える」について、名古屋大学教授・減災連携研究センター所長の福和伸夫先生からご講演をいただく。この地域は南海トラフ地震が近いと想定されており、自分自身はもとより家族を守るために、日頃からどのような心構えをすればいいのかが、何を準備すればいいのかについて学んでいただきたい。

「伸ばそう健康寿命!」~運動の大切さ~について、あいち健康プラザの運動指導士石川裕哲先生からご講演をいただく。

組合役員は、ややもすると労働運動はしていても身体にいい運動はできていないのではないかと。今回の講演を自分自身に与えられた課題と受け止め、一人ひとりが健康であり続け、充実した活動ができる期間を延ばしていただきたい。とあいさつをした。



伸ばそう健康寿命!

「過去の災害に学び今後の震災に備える」



福和伸夫氏

名古屋大学教授・減災連携研究センター長

福和伸夫氏

本報告は紙面の制約により福和氏の講演を元に編集者の責任でまとめたものである。

福島原発の事故の後に失敗学の高村洋太郎(事故調査・検証委員会委員長)は明快に言った。「見たくないものは見えない。見たいものが見える」。私たちは見たくないモノを避けたために、そこに事故の原因があり、とんでもないことを起こしていく。これは常に大きな災害の時に繰り返して来たことだ。

安全衛生 Q&A



【問題】プレス作業を行うための次の操作機器のうち最も危険性の低いものはどれか

- (イ) 足踏み操作スイッチ
- (ロ) 両手操作スイッチ
- (ハ) 片手操作スイッチ

答えと解説は裏面

大河ドラマの「真田丸」の時代にも地震があった。日本の歴史は地震の影響で変遷したとの見方もできる。

熊本と神戸

熊本地震	兵庫県南部地震
マグニチュード7.3横ずれ断層	周期約1秒の揺れ
死者 益城49人西原17人	6,434人
避難者18万人	32万人
全壊 7,696半壊23,094	全壊104,906半壊144,274

死者が1/100に留まったのは、震度7の熊本の人口が4万人と阪神の1割で、1回目の地震後車中泊が多かったこと、そして、20年間で耐震化進めてきたことによる。

震度7エリア人口×避難者・車中泊×耐震化の進捗
 $\frac{1}{10} \times \frac{1}{5} \times \frac{1}{2} = 1/100$

そして、今後の地震でもこうしたことを踏まえないと、この程度の被害と勘違いしがちである。

益城町役場は耐震基準をクリアしていたものの渡り廊下が落下し庁舎全体が使用できなくなったため、町としての災害対応ができなくなった。一方、西原村役場は耐震基準を超えておりビクともしてない。

建物に加わる地震力

建築基準法は最低限の基準となっており、基準を超す地震であったためマンションは9割が被害を受けた。コストダウンのために耐震基準に適合するようにギリギリで造っているからだ。

耐震基準では、ほとんどの建物は建物の揺れに対して設計されており、地面の揺れに対しては設計されていない。軟らかい地盤の上の軟らかい建物は良く揺れる。

熊本では壁の無いところは潰れているが、壁のあるところは潰れていない。壁が多い建物は基準の計算外の余力があり安全だ。しかし、多くの人は柱とガラスの建物が好きだ。

新しい戸建ての建物は壁も多く軽い建築物でより安全になった。一方、集合住宅は新しいほど背が高く、地盤条件が悪く、コストダウン重視で危険かもしれない。

迫りくる自然災害

最大クラス（M9クラス）の南海トラフ大地震は壊滅的な被害をもたらす。死者323千人、全壊家屋約240万戸、経済被害170+50兆円。

今から1150年前にも多くの地震が発生した。最近もそのころとそっくりの場所で地震が起きている。過去に学ばないから「想定外」という。大震災の後に社会が混乱し、若者が出て来ることが出来る。若者が新しい時代を造るから「大河ドラマ」で描かれる。

東京は危険な所に一流企業の本社が集まり、気象庁も東京消防庁もある。一番危険なところに東京スカイツリーがある。一方、瀬戸のデジタルタワーは安全な岩盤の上にある。そして、どちらも同じ設計者である。東京の機能の一部を名古屋に持ってくる気概がないといけないのではないか。

名古屋は日本一安全なところに三の丸庁舎街がある。全部耐震補強している。役所も免震装置を入れている。ど真ん中に焼け止まりの100m道路がある。気象台も新聞社も放送局も安全なところにある。人口密度も適度、住環境も良い。所得もまあまあだから子供も良く生まれる。製造業も現役、農業も現役である。日本の文化の良いところを全部残している。

減災館＝地域博物館

労働組合も一緒になって魅力ある地域づくりをする必要がある。そのために、人のやる気と連携力、地域の歴史と文化と伝統の魅力を多くの人たちに語り掛け、みんなが安全な社会になるために動いてもらう。今、ここにいる人が周辺の人にいかに関わり掛け、より多くの人に理解してもらい、誰も不幸せにならないようにしていただく。

それを応援するために減災館とシンクタンクとしての減災連携研究センター組織を作り、この地区を守る戦略を立てている。

減災→克災→ルネサンス（地方創生）

危険な東京・大阪ではなく、3男坊の名古屋人が日本を救うという語呂合わせで「3男坊のJAPAN」を作ってみた。

3×J 自由・地道・地元（愛）

3×A 頭をつかい・汗をかき・愛（嬌・情・着）をはぐくむ

3×P Player・Plan・Product

3×An Antenna（アンテナ）・Analysis（分析）・Answer（答えを出す）

この地域が不幸にならないように、力を結集し出来るようにしたい。そのためにも、労組の協力が欠かせない。労組とも協力しながら生活が災害後も継続できるようにしたい。

連合愛知安全衛生担当者研修会（5月31日）報告最終回



望月誠氏

ドライブレコーダー映像を使用した「安全メールの輪」について

東邦ガス（株）供給管理部安全・教育G課長

望月 誠 氏

東邦ガス（株）は、都市ガスを製造し愛知・三重・岐阜の3県240万件のお客に導管延長2.8万km（地球半周以上）にわたりガスを供給している。

ガス漏れや修理のため、365日、24時間車両の運転が必要となる。約450台の車両の稼働率は極めて高く、東邦ガスにおける安全衛生活動の主要な柱が交通安全対策となっている。

今では当たり前かもしれないが、平成22年ドライブレコーダー（以下DR）黎明期にイベント記録型のDRを導入した。

導入当初の効果

（1）ヒヤリハット映像の危険予知訓練（以下KYT）活用

安全会議で臨場感ある動画でKYTができるようになった。

（2）不安全運転の牽制

当初は「見られるのかも」といった牽制効果

（3）事故状況の把握の容易化

翌年には交通事故が約半減するという効果が出た。しかし、次の年にはリバウンドで事故が増加した。

浮かび上がってきた問題として、若年層の交通災害件数が著しく多かった。若手社員は経験の少なさから危険を危険と思わない。危険感性が低いということが判った。

そこで、約300件のDRのヒヤリハット動画を社内ネットワークのパソコンで共有し、閲覧可能とした。この動画には、①渋滞車両からの飛び出し②自転車の斜め横断③走って横断歩道を渡った子供がいきなり戻ってくる（財布を落とした）④タクシーが降車のため急に止まる⑤見通しの悪い道路から自転車が走り抜ける等々のびっくりするような映像がある。

このヒヤリハット動画が活かしきれていない。もっと活かそうという目的で毎日見てKYTを実施するため「安全メールの輪」を導入した。

安全メールの輪の実施要領

メール送信者は入社5年以内の社員全員が輪番で毎日、全社員に送信する。送信内容はヒヤリハット動画のうち1件を選択するとともに「自分として守ること」を宣言し動画と合わせて送信するというものである。

安全メールの輪の効果

若手社員にとっての効果として、動画を選択する過程で自然に多数のヒヤリハットを見てセルフ学習ができる。文章を考える中で主体的にどうすべきかを考えた。職場で安全衛生に関する話題が増えた。一方でメールを受ける側の社員は、毎日出発前にヒヤリハット映像を見ることで、交通安全に対する緊張感を持続できた。

こうした結果、交通事故は大幅に減少し、若年者の事故も減少した。活動を通じて感じたことは、DRはあくまでも「機械」であり、これさえつければ「事故削減」というものではない。

DRを「きっかけ」にして「人間系」の安全活動を組み合わせなければ事故は減らない。ということを実感した。

今後も地域社会に信頼される都市ガス会社であるために、「人の心に訴える」活動の継続で安全衛生活動に精進していきたい。

【答え】(口)

プレス作業で発生する労働災害の多くは、手や指を金型の間にはさまれることによって発生しています。また、プレス機械は大きな力があるため、その被災の程度は軽症では済まず、手や指の切断等重い障害が残ることが多くあります。

このような、悲惨な災害を防止するためには、プレス機械のスライドの動作中は、プレス機械に取り付けられた金型の間に、手や指が入らないようにする必要があります。

スライドを上下させるスイッチを両手で同時に押すことにより動作する両手操作式スイッチでは、スライドの動作中両手が金型の間に入ることがありませんが、片手操作式スイッチや足踏みスイッチでは、金型の間に手や指が入った状態でスライドを動作することができますので、労働災害の発生につながる危険があります。